

歴代藩主は文教に心を用い、有能知名の学者を登用した。藩主の前任地である和歌山領有時代から、当時高名であった儒医・堀杏庵や黒川道祐を用いた。

その後、藩医たちが医療界に大きい影響力を与え指導性をもったのは、幕末から明治維新の激動期であった。その歴史的転機の十字路に主役を果たしたのは、藩医たちといえる。

当地方における代表的藩医達の系譜をたぐりつつ、彼等の果たした役割について考えてみたい。

(広島県佐伯郡)

江戸後期芸州山県郡の牛痘接種の研究

末田 尚

一
一七九七年(寛政十年)ジェンナーの発見した牛痘接種法の情報は、十九世紀初頭より次々と我国にも伝わり、たびたびの蘭館医等の種痘不成功にもかかわらず、蘭方医等は活性痘苗を待った。一八四九年(嘉永二年六月)モーニッケの種痘成功により、肥前・長州・京阪・江戸の蘭方医は、牛痘接種、種次に成力した。

吾芸州は、佐渡の長野秋帆の痘苗を、三宅樵水、津川元敬、後藤松軒等により種痘し、同志一〇名余が蘭学禁止令下に秘かに種を次いだ経緯は、三宅春齡の「補憾録」に詳述してある。山県郡は、同書によれば辺境の地であるが、児玉涼庵、有成父子の種痘実験(嘉永三年五月)を称賛しており、また地方史学家名田富太郎は、穴村児玉俊造の愛

児への種痘を記述しているが、その確証ならびに具体的な点は不明であった。医師会史調査により、二、三の新資料を発見したので報告する。

二 山県郡牛痘接種の資料

- (一) 兒玉涼庵有成（山県郡有田村現千代田町）
嘉永三年五月廿日「有田兒玉有成主ニ清太郎即夜前引痘イ
タンモラフ」
- (二) 嘉永三年夏「……高田郡本村デ種痘シ合併ヲ防禦スルノ質
験」本文略
- (三) 同年秋、有成「牛の痘をよめる長歌」
嘉永六年正月廿九日より三月廿日の間「兒玉涼庵先生来、
隣家小兒外当夜阿米女二才十二名に引痘」五日間滞在、十
日目再来診三月十五日、廿二日兒玉有成来リ診引痘兒而
宿、廿三日帰
- (四) 嘉永七年九月「^{天然痘}合併私言」涼庵刊行
兒玉俊造（山県郡穴村現加計町）
安政六年三月長男房太郎一才六ヶ月左一顆、万延元年三月
二男完次郎八ヶ月右五顆左四顆
文久二年三月長女富野八ヶ月左四顆
元治元年三月二女寛七ヶ月右四顆左四顆
明治三年三月三女正三ヶ月右三顆左四顆

三 山県郡牛痘接種の現存刊本ならびに写本
文化十四年中川為仁「曼遊録痘瘡編」写

戸河内村 梶原文書
天保十二年伊藤圭介「嘆咭喇国種痘奇書」写
戸河内村 梶原文書

嘉永二年筒井憲成「引痘要略解叙」写

戸河内村 梶原文書

嘉永二年檜林宗建「牛痘小考」刊

有田村 小田文庫

嘉永四年檜林宗建「牛痘小考」写

大朝村 金屋文書

嘉永六年三宅春齡「補憾録」

川西村 細田文書

嘉永六年三宅春齡「補憾録」

坪野村 住谷文書

安政二年「昆斯牛痘書」写

戸河内村 梶原文書

四 考察

嘉永二年以降、先進諸国は藩主の庇護の下で、また有力蘭学者は豪商文化人の後援により、組織的な種痘を実施している。しかし保守的な農山村で嘉永三年より行われた種痘例はまれである。芸州では、前年二月蘭学禁止令が発せられていたので、当郡の児玉涼庵有成の業績は特筆に値する。今日、同家の文書は散逸してその詳細は不明であるが、今回会史編纂のための根本調査により、嘉永三年五月近隣壬生神社宮司長男に種痘（文献資料（一））、嘉永六年には、北部大朝村医家子女外一名に施術し経過をたびたび診ている。また同七年秋、涼庵の「天然痘合併私言」の種痘啓蒙書の中に、種痘、数千人と記している。

また穴村児玉俊造は、自筆の自家戸籍に、天然痘済や愛児五名の種痘記録を記している。当郡で種痘がかくも早期に実施された要因は彼らが医を学んだ師に恵れていたことである。すなわち有田児玉父涼庵は長崎に、子有成は大坂日野葛民西京船曳門橋に弘化天保初年に学び、牛痘種痘法の知識および日野鼎哉の白神痘苗の入手が考えられる。

一方穴村児玉俊造の師、小川道仙は血縁あり、三宅春齡等の同志一〇名のうち道仙の他、津川元敬は有田村小田北浜

の季子、後藤松軒の父は中筒賀村医森氏である。この三名の藩医の門人が当郡に多い。また、長崎・京阪・江戸の蘭学塾に学び蘭方医として明治七年郡医師履歴書を届けているもの約三分の一である。

また、現存古医書調査により、牛痘接種の刊本および写本は先記医師以外医人の蔵書がある。

これらの新資料および明治九年山県郡医師履歴調査・芸藩医を含めた旧医家の血縁地縁の系譜・学派の系譜・古医書目録等により、我国における種痘史の初期の頃の実施されたことは明らかである。しかし、未調査で具体的事項の不備や独断的推論もあるので諸賢の御教示を願う。

文献資料

- (一) 嘉永三年「年中行事社方万集録」
- (二) 嘉永三年三宅春齡「補憾録」
- (三) 明治三十九年十月「芸備医事」
- (四) 嘉永六年「陋室日記」
- (五) 嘉永七年児玉涼庵「天然痘合併私言」
- (六) 明治九年児玉俊造「自家戸籍」

壬生神社千代田町

井上文書
広島県史

大朝村 金屋文書

壬生村 井上文書

東広島市 箱田文書

(広島県山県郡)